

教科書の全範囲を教えながら、主権者教育を日々行うことは可能なのか？ ～学校教育・職場を取り巻く理想と現実の中で～



開催日時：2019年12月7日（土）
場 所：東海大学高輪キャンパス 4号館 4102 教室
参加者数：22名（+運営スタッフ・話題提供者）



喜井悠策さん

話題提供者

斉藤仁一朗さん（東海大学・J-CEF 運営委員）

喜井悠策さん（一般社団法人こたえのない学校）

今回の TOKYO スタディ・スタヂオでは、シティズンシップ教育の一分野である主権者教育に重点を置き、学校においてどのように実践をしていくのか考えていきました。話題提供を斉藤仁一朗さん、喜井悠策さんにしていただき、参加者 22 名と話題提供者で議論を深めてきました。

第1部ではまず「学校を取り巻く理想と現実」をテーマに、参加された学校の先生から共有されました。その方の考える学校の課題や問題意識として、情報共有・スケジュール管理・本当に大切なこととは？（学校、教科、教科書...）があげられました。主権者教育をしたいけど現実...という課題が明らかになり、参加者の皆さんとも「日常の中での理想と現実が一致しているか」をテーマに議論。やはり忙しさなど多くの要因から理想と現実が一致しない現状があるようです。その後、教科書カバーリング問題を念頭に置いて、主権者教育を取り巻く学校の状況を整理し、「どうしたら、うまくいくのか？」を、参加者皆さんの学習者経験や生活者経験をもとに議論。その理想は誰が求めているのか、そもそも学校は何のため行くのか...。悩みは尽きません。



斉藤仁一朗さん

休憩を挟み、「どうすれば、理想と現実を調整できるのか？」をテーマにした第2部へ。まず、斉藤さんと喜井さんによる高等学校での1年間にわたる実践研究に関する話題提供をいただきました。その中で、今回の全体テーマに対する一つの策として「逆向き設計」の提案（ゴールの設定→評価方法の設定→流れを計画）、アクティブラーニングの中でのインプットの方法に関して、パフォーマンス課題の活用や自治的な学習集団づくりについて提案をいただきました。最後は話題提供をもとに「本当にこれでうまくいくのだろうか」と、参加者と話題提供者を交えて議論。話題提供を受けての本音やモヤモヤ、アイデアが共有され、今後の実践や議論への接続が見受けられたように思います。

今回のスタディ・スタヂオは今年度最も多い参加をいただきました。多くの皆さんが今回テーマに関して日頃悩みながら取り組まれていることの現れだと思えます。今後もスタディ・スタヂオでは皆さんの悩みや考えをもとに、シティズンシップ教育について話題提供をいただきながら議論していきたいと思えます。また、スタディ・スタヂオでの学びを皆さんが持ち帰り、それぞれの場所でさらに深めて持ち寄る場となれば幸いです。次回は来年2月に開催予定です。また、3月には年1度のシティズンシップ教育ミーティングも開催します。皆さまのご参加をお待ちしています。

（Vol.5の主な企画・運営スタッフ：浜田末貴・古野香織・別木萌果・斉藤仁一朗 報告担当：小田切瑞生）



話題提供まとめ